

○11月14日(日)開催 第3162回例会
兵庫県山岳連盟同調例会
第63回六甲合同登山

「楽しもう!深秋の裏六甲へ」

布引支部(兵岳連・普及委員長) 吉野 宏



記念バッジ/ムラサキセンブリ

昨年は、第62回目の開催を予定していたにもかかわらず、11月はコロナ禍感染の第3波が押し寄せ、感染拡大が急増した月となり、準備万端でありながら急遽中止せざるを得なかった悔しく残念な年度となった。しかし今年は、2回のワクチン効果に加え、拡大防止策の基本を忠実に守っている効果も相まって、第5波は急速に弱まり、規制もどんどん解除。

11月1日付の報道では「東京都 新型コロナ新規感染確認が1年5か月ぶりに1桁に!」と、皆様も久しぶりに暗室から飛び出したような感覚になられたことと思う。そんな状況の中で、第63回目となる六甲合同登山を行うことが出来た。

【計画の変更と結果】

当初の計画では表六甲から裏六甲紅葉谷経由で有馬へ下る予定にしていたが、数年前に崩れた一部コースが再整備されることになり、現在工事の真っただ中で、ロープウェイの有馬温泉駅横を通過する登山道の一部が通行止となっている。そのため、魚屋道への迂回路になっている炭屋道の登りのシンドさには閉口、たいがいのハイカーは嫌がるコースである。

そのため参加を見合わず人が多いと予測し、コースをゴルフ場から縦走コースを東へ取り、一軒茶屋前から魚屋道を下るコースに変更しておいたのは良かったと思われる。

又、只でさえ加盟団体会員各位の高齢化も急速に進んでいるのに加え、2年間に及ぶコロナ禍

により体力の急降下もあって、全コースだけでの歩きは参加数が極端に少なくなるのでは?との思いもあり、半コースを設けた事も若干ではあるが参加増に繋がったと思う。

.....

【実施内容】

全コース組は六甲ケーブル下8時30分集合。

古賀岳連会長の挨拶に続き、注意事項とコース説明を行った。



スタート地点での集合模様

コース前半の油コブシは、三角点のある625.5Mまでが急登で、登りごたえはあるが、ハイカーは少なく、又、4班に分けて間隔を空けながらゆっくりと歩けたのでは?と感じた。



油コブシの中間地点で休憩

六甲山地の南面は、防災機能の強化の為に樹林帯として守り育てていく活動が、市民や企業の団体が参画して盛んに行われており、定着している。油コブシもその一角であり、伐採の跡には植林を行い美しい森に変化していく場所として楽しみである。



美しく紅葉した油コブシの南斜面

山上の神戸ゴルフ倶楽部前で集合している半コース組と、予定の10時50分に合流。ガーデンテラスを目指してゆっくりと歩いた。好天に誘われ、六甲山の山歩者は流石に多い。トイレ休憩後、早々と出発。予定している紅葉谷入口手前の広場で昼食タイムとした。何分にも80名余りの団体行動なので、苦情の出ないように注意を払いながら、縦走コースを忠実に歩いた。



六甲最高峰での集合写真

六甲最高峰直下に完成している新しいトイレ兼休憩所が初めてという会員さんも居られたので案内し、魚屋道を下る。



新しくなったトイレ兼休憩所

完歩賞を運んでくれたS会員さんの情報がいち早く飛びこみ、有馬温泉街は大混雑。予定していた河原も、急遽提案した駐車場付近も車で大渋滞。したがって筆屋道手前の東屋で先に閉会のご挨拶などを行ったのは大正解で、魚屋道を下りきったゴールではスムーズに完歩賞をお渡し出来、無事に行事を終えることが出来た。

天候 晴れ

参加者 申込者/104名 歩行者/89名



【追記】

集合場所での古賀会長の挨拶の中で「裏六甲での道迷いから遭難・事故に繋がるケースが多く、ついでには、本日歩くコース中や、裏六甲を歩かれた時に感じられた、コースの不備やコースの指標不備、新しい案などどしどしご意見をお聞かせ願いたい」とお願いしましたが、皆様のご意見・ご提案どうぞ宜しくお願い致します。

※ ヒヨコの皆様は吉野までお願いします。

携帯/090-7347-8969

メールアドレス/

yoshino_h@ares.eonet.ne.jp